



財団法人 星総合病院

けんこう 懸 虹

(題字は名誉理事長直筆)

平成21年 1 月 No.262

新年のご挨拶

安全で安心できる医療の
提供を目指して

- 褥瘡ドックを開始しました
- 第25回海外研修
- 母乳育児のすすめ
- くすりQ & A
- 第74回集談会
- 第3回院内学会
- 施設ニュース
- トピックス



安積山 (F20、1999)
名誉理事長 星 一雄

醫 霊

これからますます寒さが厳しくなる時期に、増えてくるのが脳血管障害である。脳卒中とも謂われる。卒中とは「卒(突然)として風邪(ふうじゃ)に中(あた)る」という意味の言葉で卒中風とも言つゝ急に風にあたつて倒れた様子が浮かぶ。脳の血管の閉塞や出血が突然に起こることと生じる病気の総称であるが、これまでなんでもなかった人が突然に病気に見舞われる。癌・心疾患について、死亡率も高く全国統計で人口10万人あたり100人である。しかし、福島県は寒冷気候でもあり、10万人あたり148人と、全国平均の1.5倍となっている。それでも最近では医療の発達により昔に比べると死亡率は激減している。喜ばしいことではある。その一方で、脳血管障害になる人の数はあまり減っていない。昔に比べ、食生活の欧米化、肥満者の増加などにより、脳出血(脳血管が切れる)が減少し、脳梗塞(脳血管が詰まる)が増加してきているのである。

これは何を意味するのであろうか。医療の進歩により、確かに救命率も上がり、治療成績も向上している。しかし、現実には、手足の麻痺などの後遺症が残り、ハンディキャップを背負いつつ生活する方も多くなっている。医師不足など医療の問題も大きい。が、介護保険ももっと充実させるべきであらう、と思つてこのごろである。

小林 亨

<醫霊> 霊をも癒(醫)やしたい—— という創始者の願いを医療従事者の医の心とすべく造られた当院の理念

安全で安心できる医療の提供を目指して



財団法人星総合病院 名誉理事長 星 一雄

今後とも、当法人に対してご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げまして、新春のご挨拶と致します。

当法人の理念は、「醫靈」である。これは辞書には載っていない語である。創始者星一郎が、私達の持てる力を最大限に発揮してもなお救えなかつた人々の靈に対し、その靈をも「醫癒」したい、それが医道を歩む者が生涯持ち続けなければならない覚悟であるという信念が込められている。医療医学は科学であるが、その対象は情と心を持った人間である。このことを常に念頭におき、科学と人間の間を埋めることこそが私どもの使命である。医の原点を見据えながら「醫靈」という理念の具現化を図っていきたい。

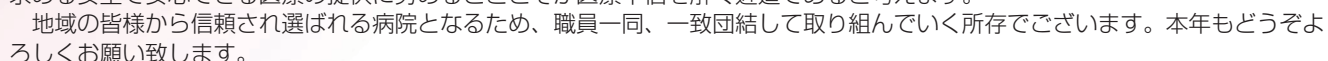
財団法人星総合病院 理事長 星 北斗

本年は新たな中期計画を策定するとともに、安全で安定した医療の提供の核となる星総合病院の移転新築計画を前進させることに全力を尽くしたいと考えています。計画実現に向け、地域の皆様のご協力をお願いします。



Network &

財団法人星総合病院 副理事長 星 二郎



財団法人星総合病院 総長院長 丸山 幸夫

A circular portrait of Professor Emeritus Shiro Kawai. He is an elderly man with white hair, wearing a white shirt and a dark tie. He is looking slightly to the right of the camera with a serious expression. The background is a plain, light-colored wall.



理 念

新年のごあいさつ 星総合病院 病院長 池田 精宏



明けましておめでとうございます。
皆様には健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

昨年11月に、政府の社会保障国民会議が最終報告を取りまとめました。その中で、社会保障の機能強化に向けて、現在とは格段に異なる質の高いサービスが効率的に提供できると強調しております。そのための具体的施策として、安定的な財源の確保のほか、サービス供給体制の計画的整備、専門職種間の役割分担に関する制度の見直し、診療報酬・介護報酬体系の見直し、マンパワーの計画的養成・確保、サービス提供者間・多職種間の連携・ネットワークの構築等をあげております。今後、実現されるサービスの姿を分かりやすく国民に示し、国民的合意を得ながら具体的な改革の工程表を明らかにすると述べております。

一日も早く、医師・看護師不足等に悩まされることなく、より良い医療を提供できる日が来ることを願っております。今年もよろしくお願い申し上げます。

新年のごあいさつ



星ヶ丘病院 病院長 沼田 吉彦

新年あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

昨年4月には、全職員協力のもと「日本医療機能評価機構」の審査を更新しました。更新にあたっては、教育体制や医療安全体制の確立、患者さん本位の医療提供を進め、医療の質の向上に努めてきました。現在、

小児から高齢者までの各世代で抱える診療が求められ、また、同時に従来の精神疾患から気分障害や不安障害などのストレス関連疾患を含めた多様な病態への対応が求められています。

今年は、診療体制の充実を図りつつ、救急及び急性期医療を更に進め、精神科急性期治療病棟を機能的に運営し、療養環境も整備していきます。また、地域と連携し、精神保健福祉活動を担っていきます。職員一丸となり、努力して参りたいと思いますので、今後とも皆様のご協力をお願いいたします。

地域に根ざした病院づくりを 三春町立三春病院 病院長 渡辺 直彦



新年明けましておめでとうございます。

常日頃より三春病院を支援いただきましてありがとうございます。

昨年は5月に待望の新病院が完成し、10月に回復期リハビリテーション病棟開設、11月には、地域の方々をお招きしての初めての病院祭り開催と活気に満ちた1年間でありました。

医療機器整備の面では、マルチスライス型のCT装置、デジタルX線テレビ撮影装置等を新規導入し、効率的で精度の高い検査を進めている所です。

本年は、地域の中核的病院として更に地域との連携を密にし、患者さんに安全で安心いただける良質な医療の提供を行っていきたくと考えております。また、現在、開院当初からの目標のひとつでもあった「日本医療機能評価機構認定」に向け、効率的な病院運営、患者サービスの向上、療養環境整備等、全職員で鋭意取り組みを行っている所です。

今後とも利用いただく皆様の声を大切にしながら、地域に根ざした愛される病院づくりをして参ります。皆様の引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

さあ、元気を出して行こう

介護老人保健施設オリオン 施設長 森 慶秋



明けましておめでとうございます。今年もよろしく。

昨年は、特に秋に入って世界的な金融破たんが起こり、それに伴って不景気による解雇、失業、就職の内定取り消し、企業倒産、さらに以前からつづく「医療崩壊」と暗いニュースばかりが続きました。その出口は見えてくるのでしょうか。私の3/4世紀の人生を振り返ってみても自分の意図と関係なく最初の世界大恐慌(実体験はありませんが)。それにつづく戦争、そして敗戦と大きな波に翻弄されてきました。

そしていま後期高齢者といわれるところにさしかかっています。よくぞ生きてきたなとも思えますがこれからの若い人たち、子孫に何が言えるのでしょうか。でも、人類はこうした歴史を繰り返して今日まで来ました。昨年、アメリカ第44代大統領にバラク・オバマが当選した日の勝利演説にアメリカ国民は酔った、涙を流したと言われます。わが国のトップにはそれが無いのは悔しいが、われわれが自ら「元気を出して行こう」。ずっとそうして来たのだから。春は必ず来る。

新年挨拶

社会福祉法人愛星福祉会 理事長 星 光一郎



新年、明けましておめでとうございます。

ここ数年、福祉現場は医療現場と同様非常事態が続いておりますが、我が愛星福祉会といたしましては、日々の努力は、何時かきっと報われるものと信じ、社会福祉法人としての使命を確実に果たしたいと思っております。

介護保険サービスについては特養星ヶ丘ホームをはじめとし、各事業所ともサービスの質の改善を目標とするのは勿論のこと、業務効率を考え実践する職員の育成に努めたいと考えております。

措置制度から障害者自立支援法に移行する予定の精神障害者生活訓練施設北天寮については、より一層、財団及び星ヶ丘病院との連携協力を密にし、地域密着の福祉活動の拠点として新法への移行の準備を進めて参りたいと思っております。

本年も、どうぞ、ご指導宜しくをお願いいたします。

星総合病院 褥瘡ドックを開始しました

●「褥瘡」ってなに？

“褥瘡”（床ずれ）とは、寝たきりで寝返りができない方、栄養状態が悪い方、痩せて骨が出ている方にしやすい皮膚の病気です。褥瘡ができてしまうと治すには時間もかかり、患者さんやそのご家族にも負担が多くかかります。

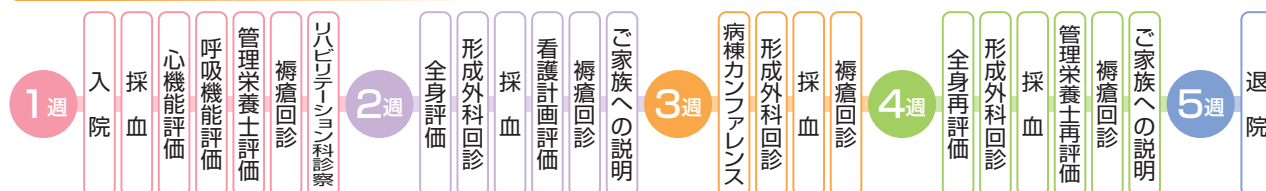
星総合病院では2002年、形成外科医師や、看護師、管理栄養士などが共同で治療を行う褥瘡対策チームを発足。以降、多くの患者さんを治療してきました。この経験を在宅褥瘡患者さんに活かしていきたいと考えて、褥瘡ドックの開始に至りました。

●褥瘡ドックではどんなことをするのか？

ひと月（4週間）ご入院いただき、褥瘡の状態や褥瘡の原因を把握します。患者さんにあった治療法や看護・介護方法を診断し、医療資源を最大限に活用できるようご提案いたします。入院中に褥瘡を治癒させるのが目的ではなく、今後どうすれば悪化しないか、早く治るか、予防できるか、について診断するものです。健康保険の対象となります。

治すのが大変な褥瘡。ぜひ一度ご相談ください。

入院中の流れ



●ご希望の方、興味のある方は…

星総合病院 総合相談・地域連携室までお気軽にお電話ください。

Tel 024-935-7120（ダイヤルイン）

第25回 海外研修報告

最先端の医療を肌で感じ、今後の医療提供に役立てることを目指して、当法人では毎年、勤続10年目の職員および研修医を対象に、海外研修を行っています。今回は、オーストラリア ブリスベンにおいて、ロイヤルブリスベン&ウィメンズホスピタル（循環器疾患・精神疾患）、トゥーウォン私立病院（精神科専門病院）、ベルビューケアセンター（高齢者ケア施設）の3施設を見学しました。



研修期間

平成20年10月5日～10月10日

研修先

オーストラリア キーンズランド州 ブリスベン市

研修参加者

22名

- 研修医（7名）：安齋めぐみ、大塚雄一郎、白石 貴久、杉本 充、多田 大和、富樫 盛一、小山田 紘
- 医療技術部（3名）：永戸 初美、菊地 康昭、堤 雅紀
- 看護部（12名）：橋本 幹子、高橋 文子、郡司 真樹、菊地 郁、伊藤 繁子、田中 陽子、本田 祐子、風間加容子、松山加奈子、田村美由紀、中川 洋平、白岩 優子

研修者の感想

- ・今後地域医療サービスの中で医療の質をどのように改善させていくか参考になった。
- ・施設や器具の充実を求めるだけでなく、それぞれの職種に対する理解を深め、職員全体で協力することが、患者さんの利益につながると感じた。
- ・初めて外からの目線で日本の医療を考えることができ、日本もオーストラリアに劣らない医療を展開していると感じた。
- ・視察先の医療スタッフの離職防止策など、職場環境改善に向けた取り組みがなされており、またスタッフ同士の連携や信頼関係の向上については、今後の業務に活かしていきたい。
- ・オーストラリアの急性期病院での在院日数は日本の平均よりかなり短く、入院時にコーディネーターが退院計画を作成、在院日数短縮に向けてスタッフ一丸となって取り組む姿勢は見習うべきところがあった。
- ・研修で学んだことを患者さんに提供できるよう、今後も自己研鑽に努めていきたい。

母乳育児の あすめ

母乳育児って楽しい!!

星総合病院産婦人科病棟 母子ケアグループ

今回は、当院で行っている母乳育児支援についてご紹介します。

お待たせしておりました**24時間母子同室**を、平成20年8月より開始しました。実際に同室したお母さんからは、「赤ちゃんと一緒に過ごせてうれしい」「母親としての自覚が持てた」「赤ちゃんとの生活リズムがわかるようになってきた」「添い寝すると、赤ちゃんも寝てくれるんですね」「(赤ちゃんを)預かってもらおうと、かえって気になって眠れない」などの声が聞こえてきています。

お母さんと赤ちゃんが一緒に過ごすとお母さんは赤ちゃんのサインをすぐにキャッチすることができます。そのため赤ちゃんは安心し、泣いていることが少なくなり、顔のひっかき傷を作ることも少なくなりました。入院中から、赤ちゃんと一緒に生活しているため、自信を持って退院されるお母さんが増えました。赤ちゃんの欲求に合わせた授乳は、母乳の分泌が促進されるという利点もあります。

母乳育児は、母子の愛着促進や、母乳に含まれる成分などから、厚生労働省の「健やか親子21」に掲げられ、WHO（世界保健機構）からも推進されており、世界的に広がっています。母乳育児発祥の日本が遅れているくらいです。

赤ちゃんは、お母さんに抱っこされ、肌と肌が触れ合いその温もりを感じることで安心し、気持ちよく眠ることができます。またお母さんは、おっぱいを吸ってもらうことで幸せな気持ちになり、母子相互作用が生まれます。

お母さんにしか味わえない幸福感や育児の楽しさを感じられる瞬間です。さらに、母乳にはお母さんの免疫物質が含まれており、赤ちゃんの日齢に合わせて成分が変わったり、お母さんの食事によって味も変わるため、赤ちゃんの飲み方の変化も楽しめます。

母子同室は、お母さんと赤ちゃんの体調を考慮しながら、無理のないよう楽しく育児が行えるようお手伝いしていきたくと思います。

また、退院後の育児相談や、おっぱいのトラブルケア・悩み相談等のアフターケアも行っています。ひとりでも多くのお母さんが母乳育児を楽しめるようにサポートいたしますので、いつでもどなたでもおいで下さい。お待ちしております！



～知っておきたい薬の知識～

食事しないでクスリを服用しても大丈夫？



何かと忙しい現代人！
このような会話をよく耳にします。

薬剤師
「クスリは朝・
昼・夕の食事の
後30分ぐらい
にきちんと飲ん
で下さいね」

薬局

患者
「ハイ、でも、
朝御飯は食べ
ないし、昼も遅
いし…、どうし
よう？」

健康管理は、規則正しい生活、規則正しいバランスのとれた食事が原則ですが、勤務形態などできちんと食事をとることが難しい場合には、主治医や薬剤師とよく相談することが大切です。

クスリの中には、食事をしないで服用すると大変危険なクスリがあります。それは「**糖尿病のクスリ**」です。このクスリを飲んでいての方は必ず食事をするようにして下さい。そうでないと低血糖発作を起こしてしまう可能性があります。もし、食事がとれないような場合は糖尿病のクスリは服用しないで、次の食事の時に決められた量を服用するようにして下さい。

飲み忘れた場合や、食事をとらなかった場合、低血糖を起こしてしまったときの対処方法…など医師又は薬剤師に確認しておいてください。

また、痛み止めは空腹時に服用した場合に、胃炎、ひどい時には胃潰瘍を引き起こす場合もありますので、注意が必要です。

星総合病院 薬剤部 渡辺 剛

第74回集談会

平成20年12月11日 郡山ビューホテルアネックス

当法人職員の研究発表の場として、また、最新の医学・医療の知識を学ぶ場として年2回開催している集談会を開催し、当法人職員の他、地域の医療機関の先生など300名を超える参加がありました。

昨年郡山市で初の導入となった64列CTについて、狭心症や心筋梗塞の検査に有用な冠動脈CTを行った際の成功率調査についての報告など、職員による12題の演題発表が行われました。

特別講演の講師には福島県立医科大学医学部内科学第一講座教授の竹石恭知先生をお招きし、「循環器診療の最近の進歩」をテーマに虚血性心疾患、心不全、不整脈各分野における新しい治療法や検査法について、わかりやすく説明していただきました。

■総司会 整形外科 川前 恵一

■座 長 リハビリテーション科 長尾 光祥

1. 多施設によるセルフケア事例検討会を行うことによる効果
—丁寧な看護師の捉え方がケアに与える影響—

星ヶ丘病院 B-3病棟 伊藤八重子

2. 星総合病院における外来化学療法と看護の役割

星総合病院 外科外来 郡司かおり

3. 当院における食物アレルギー負荷試験の現状

星総合病院 小児病棟 加藤 洋子

4. 当院における職員の倫理意識向上のための取り組み
—第1報 意識調査及び今後の課題—

星ヶ丘病院看護部倫理委員会 遠藤 太

■座 長 循環器内科 三浦 英介

5. 医療安全への取り組み

—ブレフィルドシリンジ導入の効果—

星総合病院 臨床工学科 木村 恵規
(氏家憲一)

6. 新人教育システムの構築に向けて

—学生アンケートからの考察—

星ヶ丘病院 リハビリテーション科 瀬上 憲

7. 三春町立三春病院における

回復期リハビリテーション病棟

三春町立三春病院
リハビリテーション科 滝田 裕子

8. 放射線科ネットワークの現状

星総合病院 放射線科 続橋 順市

■座 長 循環器内科 木島 幹博

9. 64列CTにおける冠動脈CTの成功率調査

星総合病院 放射線科 佐久間守雄

10. 家族性乳癌の1家系

星総合病院 研修医 片倉真輝帆

11. 血管内光干渉断層撮影法 (OCT) による
急性冠症候群の病因診断

星総合病院 循環器内科 三浦 英介

【第143回福島県医師会医学大会 医学奨励賞受賞研究】

ヒトインフルエンザウイルスのヒト血管内皮細胞への
感染とアポトーシスの誘導

星総合病院 小児科 隅越 誠

特別講演

■座 長

総長院長 丸山 幸夫

「循環器診療の最近の進歩」

福島県立医科大学 医学部
内科学第一講座 教授
竹石 恭知 先生



第3回院内学会

平成20年12月11日
郡山ビューホテルアネックス

集談会と同日、同会場において、「第3回院内学会」を開催しました。当法人では、法人全体の研究発表の場として、年2回の集談会のほか、年1回の業務改善報告会を実施しておりますが、さらに多くの職員が情報を共有できるよう、またプレゼンテーションスキル向上を目的とした練習の場となるよう実施しています。職員123名が参加しました。

司会・座長 形成外科 佐瀬 道郎

特別演題

褥瘡ドック開始にあたって

星総合病院 形成外科 佐瀬 道郎

一般演題

1. 平成19年度当法人医療介護施設における細菌検出状況

星総合病院 中央検査科 郡司 志保

2. 当院における吸引脱血を併用した対外循環症例の検討

星総合病院 臨床工学科 二上 倫嗣

3. 冠動脈CTが有用であった例
—CTO病変のPCI前CTの有用性—

星総合病院 放射線科 佐久間守雄

4. 三春町立三春病院における遠隔画像診断の運用について

星総合病院 放射線科 白石 嘉博



施設ニュース

各施設でボランティアコンサート開催

星総合病院

11月15日

1階待合ホールにおいて、安積高等学校合唱団によるコンサートを開催し、「赤とんぼ」や「ふるさと」など計7曲を披露していただきました。高校生の美しく透き通るような歌声に、患者さんの中には感動して涙ぐむ方もいらっしゃいました。



安積高校合唱団団員の方より手紙をいただきました。(内容抜粋)

たくさんのお客さんが聞いてくださるという素晴らしい機会をいただき、ありがとうございます。歌い終わってから、こらえきれずに泣いてしまう団員もいて、私たちもたくさんの感動と気持ちをいただきました。“自分たちの歌を聞いて、感動してくださる人がいる”というのは何よりもうれしい実感です。

星ヶ丘病院 介護老人保健施設オリオン

12月20日

あさか開成高等学校音楽部によるクリスマスアンサンブルコンサートが、星ヶ丘病院、介護老人保健施設オリオンの両施設において行われました。「ジングルベル」や「きよしこの夜」など、吹奏楽と合唱の素敵なハーモニーを披露していただきました。



三春町立三春病院

12月26日

三春小学校4～6年生40名が来院し、コントラバス・チェロ・バイオリンによる「三春小学校校歌」「大きな古時計」などの演奏を披露してくれました。集まった患者さん達は、子供たちの奏でるやさしい音色に聴き入っていらっしゃいました。



星 総 合 病 院

第10回 解剖医霊祭

11月13日

郡山斎場において、第10回解剖医霊祭を開催しました。平成19年10月以降、医学・医療の向上のためにと病理解剖に身を捧げられた7柱の御霊を追悼し、そのご冥福を祈りました。ご遺族の方々や、ご来賓、法人職員など計130名が参列し、一人ひとり献花を行いました。



小児病棟歯科口腔衛生指導 11月11日

小児病棟で今年度2回目の歯科衛生士による歯科口腔衛生指導が行われました。入院中の子どもやご家族など28名が参加し、虫歯予防や歯磨き指導を受けた後に、アンパンマンのペープサート劇や紙芝居などを見て、改めて歯磨きの大切さを実感しました。



星 ヶ 丘 病 院

100歳賀寿贈呈式 10月20日

星ヶ丘病院に入院されている小野寺キノさんが10月20日に100歳をむかえられたことを祝って、百歳賀寿贈呈式が行われました。会では、福島県や三春町、星ヶ丘病院から、記念品や花束の贈呈が行われました。

小野寺さんがいつまでも元気気で長生きされますようご祈念いたします。



三春町立三春病院

みはる病院まつり

11月15日

病院屋上および会議室等の特設会場で、第1回病院祭りを開催しました。好天に恵まれ、子供からお年寄りまで多くの方々で賑わいました。町内の皆さんによる太鼓演奏や合唱の披露、その他パワーリハビリ体験や血管年齢測定、バザー、スーパーボールすくいなど様々な催し物を行い、350名という多くの方々にお越しいただきました。



職員向け 星総合病院保育所が 開所しました

より働きやすい労働環境の整備、職員への福利厚生充実を目指し、以前から準備を進めていた星総合病院保育所が、12月1日に開所しました。これにより、星ヶ丘保育園と合わせて、職員向けの保育施設が2施設となりました。



県野球連盟主催講演会 財団法人星総合病院共催

11月1日、郡山市労働福祉会館において、福島県野球連盟主催の「医療と野球指導者の双方の専門家から選手の体を守る方法」と題したスポーツセミナーが開催されました。県内外から中学・高校生、その指導者など350名ほどが参加しました。星総合病院整形外科の川前恵一医師が座長を務め、福島県立医科大学整形外科大歳憲一先生、元阪神タイガーストレーニングコーチの前田健先生がそれぞれ、野球による肩や肘の障害および体に負担がかからない投球動作の仕組みなどについて講演し、参加者は熱心に聴講していました。



県医師会医学大会 医学奨励賞受賞

11月16日に福島市で行われた第143回福島県医師会医学大会の席上において、優れた論文を作成した医師に贈られる医学奨励賞の表彰が行われ、星総合病院小児科の隅越誠医師が受賞しました。

研究テーマ：「ヒトインフルエンザウイルスのヒト血管内皮細胞への感染とアポトーシスの誘導」

12月11日に開催した「第74回集談会」において、隅越医師による受賞研究についての発表が行われました。参加者はメモを取りながら真剣に聴講し、研究内容についての理解を深めました。



隅越 誠 医師

病院ボランティアの方々が 活躍しています

財団法人星総合病院では、病院ボランティアの方々が様々な場面で活躍しています。(ブルーのエプロンが目印です)

ボランティアさんの声

主人が入院中お世話になり、その恩返しになれば良いと思い、また、身近なところからできるボランティアをしたいと思い、ボランティアを始めました。毎回とても楽しく活動を行っています。

あなたもボランティアに参加してみませんか？

〔活動内容〕

- ・ 来院者のご案内
- ・ 受診申し込み、自動受付機による受付などのお世話
- ・ 高齢者の方や乳幼児を連れた方、車椅子の方への介助
- ・ 医療材料づくり ・ レクリエーション活動の支援 など



小児病棟 七夕お楽しみ会
(平成20年7月7日)

お申し込み・お問い合わせは…

電話 024-923-3711

担当：橋本（総合案内）・遠藤（内科外来）

ご意見をお聞かせ下さい。

ホームページアドレス

<http://www.hoshipital.or.jp>

発行／懸星総合病院

編集／「懸虹」編集委員会

発行日／平成21年1月30日

住所／〒963-8501

郡山市大町2丁目1-16

広報担当 菅野

明けておめでとうござい
ます。今年もよろしく願い
致します。
先日、院内の「接遇研修」に
参加しました。内容は、「患者様
対応の心得」という接遇DVD
を見て、接遇に対する理解を深
めるというものです。実はこのDVD、
星ヶ丘病院接遇推進委員会
が職員教育用に作成した、職員
による自作自演のDVDなので
す。病院内で日常よく遭遇する
患者さん対応の様々な場面を設
定し、「悪い例」と「良い例」を
紹介して比較検討しながら接遇
についてわかりやすく解説する
という内容です。
職員一人の行動・言動が、病
院の評価につながることを念頭
に、常に患者さん目線で物事を
考え、患者さんを尊重した丁寧
な対応を心掛けなければならな
いと、改めて自覚する機会とな
りました。

編集後記